

「NAMA とファイナンス」 傍聴報告

2013年11月19日
一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2013年11月11日～11月23日にポーランド・ワルシャワで開催された国連気候変動枠組条約第19回締約国会議 (COP19) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

タイトル: NAMA とファイナンス (Nationally Appropriate Mitigation Actions and Financing)

- 日時: 2013年11月19日 (火曜日) 10:00 - 12:00
- 主催: Kementerian PPN/Bappenas、ドイツ国際協力公社 (giz)、Kerja sama Jerman
- 会場: インドネシアパビリオン Level -2, Room C-1 (National Stadium, Warsaw)
- プレゼンター (敬称略): Endah Murniningtyas (インドネシア開発環境省/Bappenas、自然資源環境省副大臣)、Heiner von Luepke (GIZ)、Syamsidar Thamrin (インドネシア国家開発企画庁)、Fernando Farías Ellies (チリ共和国、気候変動室室長)、Dennis Tirpak (WRI)、Dhani Gunawan Idat (インドネシア銀行)

■ 概要

現在多くの開発途上国は NAMA 実施のための準備を進めている。各国共通の課題として、NAMA プロジェクトを成功に導くためにはどのような資金調達が必要なのかといったことが挙げられる。本セッションでは NAMA の取り組みが進んでいるインドネシアとチリから、NAMA ファイナンスにおける各国の事例を紹介する。また NAMA ファイナンスにおける課題とグリーンバンキング等の新しい取り組みについても議論が行われた。

1. Heiner von Luepke (GIZ): 「NAMA ファイナンスー可能性と課題 (Financing NAMAs, what are the potentials and challenges?)」

- NAMA へのファイナンスはいくつかの選択肢が考えられるが、それらをどのように一つのプロジェクトとしてまとめていくかということが課題である。
- 関係者のプロジェクトへの参加、ファイナンスの設立、それぞれのファイナンスの流れを把握し、成果として示していくことが今後の課題であると思う。

2. Syamsidar Thamrin (インドネシア国家開発企画庁): 「インドネシアのNAMA体制 (NAMA への公的資金投入例: 都市廃棄物処理における垂直型NAMA)」 (Indonesia NAMA Framework (Example of a NAMA, funded mostly publicly: municipal waste management – vertical NAMA))」

- 2013年に温室効果ガス排出削減に係る国家行動計画 (RAN-GRK) および地方 (州別)

行動計画（RAD-GRK）のための MER（Monitoring, Evaluating and Reporting）ガイドラインが発表された。

- 政府の政策実施や予算配分の基礎となる国家中期開発計画（RPJMN）（2010—2014年）が設立された。
- インドネシアの NAMA は GHG 排出削減を進めるための国家行動計画に盛り込まれている。
- インドネシアの NAMA ファイナンスは3つのカテゴリー（国内公的資金、国際公的資金、そして民間資金）に分類される。
- インドネシアでの V-NAMA（Vertically integrated in NAMA、垂直統合型 NAMA）プロジェクトがインドネシア気候変動緩和行動において GIZ の支援を受けながら都市廃棄物分野への取り組みを行っている。このプロジェクトの目的は銀行融資を組めるような NAMA の提案書を作り上げることであり、国、州および地方政府の協力が重要である。

3. Fernando Farías Ellies（チリ共和国、気候変動室室長）「民間資金による NAMA」

- チリ共和国は 2020年までに BaU 比 20% の削減を目指しており、気候変動緩和および経済開発に貢献する MAPS（Mitigation Action Plan and Scenario）Chile の策定を進めた。
- 現在エネルギー産業、森林、エネルギーおよび廃棄物の4分野で UNFCCC に NAMA を登録している。チリにおけるクリーン技術基金投資計画（CTF investment plan for Chile）を利用し、国内外の資金をうまく活用する必要があると考えている。
- CORFO（The Chilean Government's Economic Development Agency）下の再生可能エネルギーセンターが、SSRE（Self-supply renewable energy）の NAMA を実施している。再生可能エネルギーセンターは、銀行融資を得られるようなプロジェクトパイプラインの開発と、金融関連機関へのトレーニング、さらに基金の交付を行っている。また技術部門では人材育成、ヘルプデスクの設置と知識の共有、さらに意識向上に向けた取り組みを行っている。

4. Dennis Tirpak,（世界資源研究所エネルギー資源 上級研究員）：「MRV に必要なファイナンス」

- 各国の気候変動対策に必要な資金額、実際に供給された資金額および支出額、地方への資金の流れ等を把握する事が重要である。
- UNFCCC に隔年報告書を提出する過程で、気候変動関連基金の全体像を把握でき、資金の流れやニーズとのギャップ分析を行う事ができる。また、国際的な金融メカニズムへの直接的なアクセスを確認することで、国家気候変動財務戦略の包括的、効率的な運営に貢献できる。
- 気候変動のファイナンスを分析する際の課題は、気候変動のファイナンスの定義と基

準が曖昧であり、財務データの特徴、指標や体系の整備不足、省の役割と責任の不明瞭さおよび不十分な組織体制、支出を特定・記録するために必要な技術的なプロセスとシステムの欠如などがある。

- 開発途上国が直面するファイナンス分析の課題は、政府以外の関係者が提出するファイナンスに係る情報の不足、金融手段が異なる場合の理解・把握能力の欠如、提供された財務データの不足、地方レベルでプロジェクトの効果を把握する場合の、国内外の分析基準の違いなどがある。
- ラオスやコロンビア、そしてフィリピンなどの国に見られるように気候金融の流れを適切に記録している例もある。

5. Dhani Gunawan Idat (インドネシア銀行)「金融機関の展望：グリーンプロジェクトに資金を供給するための条件は何か。パート2：金融セクター」

- インドネシアのグリーンバンキングは、国家の開発における持続可能な貢献を目指しており、現在の課題は国内銀行の能力不足と世界的な金融の不安定性である。
- 2010年にインドネシア銀行と州の環境部門がMOUを結び、人材育成、市民意識の向上、グリーン貸出モデル、規制、共同研究などについて確認を行った。
- 再生可能エネルギー、持続可能な農業、グリーン産業、およびエコツーリズムなどがグリーン金融ポートフォリオとして盛り込まれた。
- グリーン金融の普及活動として、グリーン金融ポートフォリオの拡充、国際機関との協力、グリーンバンキングにおけるガイドラインの充実、インドネシア金融商品管理権限に対するプログラムの設置などが挙げられる。

■ 質疑応答

Q. 氏名・所属先不明 (タイ)：どのようにすればファイナンスの過程を逐次記録できるのか。

A. Fernando Farías Ellies (チリ共和国、気候変動室室長)：NAMA ファイナンスの違いを明確にし、分析することが重要である。我々が使用しているファイナンスは政府からの資金と助成金であり、他国が使用しているファイナンスと大差はない。ファイナンスの追跡調査の手順を少しずつ改良すればいいと思う。

Q. 氏名不明 (UNEP)：チリとインドネシアではNAMA 実施に対する日程計画はあるのか。

A. Syamsidar Thamrin (インドネシア国家開発企画庁)：NAMA 実施は、基本的に1年以上の時間を要する。

A. Fernando Farías Ellies (チリ共和国、気候変動室室長)：NAMA の実施には1年を要した。



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

特に様々なセクターと共に働くためには適切なプロジェクトの準備と、関係者を巻き込むための入念なプレゼンテーションが必要である。

Q. 氏名・所属先不明：農民は銀行から融資を得られるのか。

A. Dhani Gunawan Idat（インドネシア銀行）：マイクロファイナンスなどの融資が得られる。ただし極貧層の場合は、ある程度の農民が集まり、融資に対する保証を確保しなければならぬ。

Q. 氏名・所属先不明（西アフリカ）：グリーンバンキングでは利益が見込めるのか。

A. Dhani Gunawan Idat（インドネシア銀行）：利益はある。

（報告者：OECC 松田英美子）

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版 http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP19report.html